

民謡はふるさとへの応援歌

小田代直子さん（民謡歌手）



明るく伸びやかな歌声で、市内のお祭りなどを盛り上げる民謡歌手の小田代直子さん。平成25年にプロとしてデビューし、全国で活動をしながら、市内で子供たちにも民謡を教えるなど、当市を拠点に活躍しています。

「東日本大震災は本当につらい出来事でしたが、歌い手として成長するきっかけも与えてくれた」と振り返る小田代さん。各地の避難所で歌ったこと。市内の仲間とオリジナル曲『明日への虹…』を作り、みんなでステージを披露したこと。「さまざまな体験を通して『ふるさと宮古』への愛着を強く持つようになった。歌の表現にも奥行きを与えてくれたと思う」と話します。

小田代さんの初舞台は3歳の時。20代前半から数々の民謡コンクールで受賞を重ね、日本民謡協会民謡舞全国大会、日本民謡ヤングフェスティバル、日本民謡フェスティバルの3大会で最高賞を受賞。全国でも数少ない「民

謡3冠」を達成しました。平成24年に宮古市観光親善大使の一人に任命された小田代さん。「全国各地のイベントで、震災支援への感謝の気持ちを伝えていく。自然の美しさも話に織り交ぜ、宮古にたくさんの方が訪れてくれるように、さらにアピールしていきたい」と意欲を見せています。

プロとして全国を行動しながら、市内の公民館で週1回民謡教室を開くなど、地元で根ざした活動を続ける小田代さん。「子供から高齢者まで、みんなが夢や希望を持ち、笑顔になれるまちになってほしい。私の歌う民謡は、ふるさとへの応援歌。『一緒にがんばろう』というメッセージを送り続けたい」と決意を新たにしています。

宮古市観光親善大使

(平成24年8月任命)

小田代さんのほか、当市出身の歌手・金澤未咲さん、みやさと奏さん（かな）さんを「宮古市観光親善大使」に任命しています。



金澤未咲さん



みやさと奏さん

宮古ブランドを世界へ発信

鈴木良太さん（「宮古チーム漁火」会長）

「難局を乗り越えるためにはこれまで通りの経営ではいけないという共通の思いがあった」と同チーム会長の鈴木良太さんは話します。4社は協業での加工・製造、仕入れや販売ノウハウの共有、4社全体を意識した計画的な設備投資などを実施。震災後約4年間で経営を立て直しました。



「宮古チーム漁火」の（左から）佐々木博基・佐幸商店六代目、鈴木良太・共和水産専務、佐々木大介・佐々京商店代表、小堀内将文・かくりき商店専務

東日本大震災で被災した、当市の水産加工業4社の若手経営者が「宮古チーム漁火」を結成。企業間の垣根を越えた連携で危機を乗り越え、全国から注目を集めています。



「岩手県産ういかに」は、第3回宮古市新加工品コンクールで最優秀賞を受賞。「シンプルな味付けで素材の良さを前面に押し出した」と鈴木さん。「宮古にもともとある良い資源や技術を『宮古ブランド』としてアピールしていきたい」と話します。

海外の見本市に参加するなど販路拡大にも取り組む同チーム。「漁火は大海を照らす光。自分たちが行動を起こすことでまちを明るく照らし、活気あふれる宮古を全国、そして世界に発信していきたい」と前を見据えています。

こころ育む、美しい森

いのち育む、清らかな川

めぐみ育む、豊かな海

宮古市の進む道は、未来へと繋がっています。

